

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 274

2007年11・12月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



9月16日、中国人殉難者
慰霊祭にて
強制連行した中国人に掘ら
せた化石山地下壕に入る前



9月30日、立命館大学
国際平和ミュージアムにて

名大生協のホームページ(URL) <http://www.nucoop.jp/>
教職員委員会へのe-mailあて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

【主張】

- パソコン&家電品フェアにご期待ください
組合員交流企画、ジャズ・ライブ、産地見学など目白押し -----3

【企画案内】

- 生協りんごの産地見学 -----4
第 20 回音としゃべりの金曜サロン
「ホット・ジャズライブ at 師走」-----5

【報告】

- 中国人殉難者慰霊祭に至る3つの美談 -----6
立命館大学国際平和ミュージアム見学ツアー -----7
2007 年オキナワの旅②
「沖縄民謡・琉球舞踊・食文化」 -----8
教職員委員会下期方針合宿の報告 -----13
教職員委員会の活動日誌 -----13

【記事】

- 魔言**「銀杏」「山高きが故に尊からずや、人多きが故に……」
「～したら、どうしよう」 -----14

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ③

- 「東山キャンパスに持ち込まれたゾウムシ」-----16

新フィールドノート-その 103 -

- 「小原村」 -----18

ニュースに一喝！

- 「刀折れ矢尽きて」「赤福事件」「暴力団」 -----20

- かけはしの輪 -----22

- アンケート・クイズ解答用紙 -----24

- CO-OP QUIZ < Logic > -----25

- 冬の組合員交流企画のご案内 ----- 裏表紙

主 張

名大生協ではいま、北部厚生会館において「パソコン&家電フェア」を企画・準備しています。日程は12月10日(月)～14日(金)までの5日間です。

恒例お楽しみ「生協ご利用感謝抽選会」は13日(木)と14日(金)に、期間中に利用されたレシート5千円で1回抽選できます(食堂部でも4000円以上の利用で補助券1枚進呈。4枚で1回抽選できます)。また、今回も理事会での決定により、特別割引を実施します。利用総額の5%相当の「購買・書籍利用券」をその場で進呈します。ただし、この利用券の利用期間は来年の2月16日までですので忘れずに使ってください。ぜひ、この機会にパソコンなどの事務機器と家電品をご利用ください。

毎年ご好評の「日替わり特価品」(前回はオークション)企画

も開催いたします。詳細につきましては、後日配布されますチラシをご覧ください。

書籍部ではフェア日程が外れますが12月21日(金)に全店舗で全点15%引きを行います。未だ読んでいない本などを手にする絶好の機会ですので多くの皆様のご利用をお願いします。食堂

パソコン&家電品フェアに

ご期待ください

組合員交流企画、ジャズ・ライブ 産地見学など目白押し

部でも色々な企画を考えていますので昼はもちろん、夕食のメニューにもご期待ください。

教職員委員会企画としてフェア期間中、火曜日から木曜日まで「組合員交流企画」を行います。愛の献血活動を12日(水)に北部厚生会館前のVBL駐車場で行

いますのでご協力をお願いします。ビデオ上映会は11日(火)ゆぐどん、12日(水)ブックス・フロンテにて今回はスタジオジブリ・宮崎吾朗初監督作品の「ゲド戦記」を上映します。赤ちようちは13日(木)ゆぐどんにて行います。めいきん生協で取り扱っている安心・安全な生協リン

ルでご注文ください。

それに先立ち11月23日(金・祝日)に生協リンゴの産地見学に行きます。生産者との交流や行楽も兼ねて一緒に行きませんか? 帰りには温泉に入ってノンビリしたいと思います。参加費は千円です。

12月7日(金)にはフレンドリー南部ホールにて「音としやべりの金曜サロン」を行います。この企画は今年で通算20回目を数えます。参加費は1,500円前後を予定しています。今回は「ホット・ジャズライブ at 師走」と題して小林美千代(asカルテット+司いづ子(ヴォーカル)を招いて、美味しい食事や飲み物をとりながら楽しいライブ・コンサートにしたいと思っています。B級品(市場に出せない物)ですがとてもおいしいリンゴで10kg箱入り2,400円ととてもお値打ちです。入荷次第(12月10日前後)、事務室・研究室まで配達いたします。予約の締め切りは12月5日(水)までに、kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp メール

生協りんごの産地見学

日 程：2007 年 **11** 月 **23** 日（祝・金曜日）

行き先：**F エースりんご園**（長野県松川町）

参加費用：大人 **1,000** 円、小人 **500** 円

（往復交通費、保険料、温泉入浴料込み）

集合場所：名古屋大学博物館前 **9** 時集合

募集人員：**10** 名

めいきん生協産消提携 F エース農園のりんごの産地を見学します。「産消提携」とは、めいきん生協が、「健康な食生活」「食の安全と安心」「食糧自給率の向上」などをめざし、進めている取り組みです。産消提携の「産」は生産者、「消」は消費者のこと。「健康に配慮し、新鮮で、安全で、おいしい産物を」と願う消費者（組合員）と、その願いに応え、生協が定めた農産物の品質基準「栽培自慢」を取得した生産者がお互い交流し、品質向上、安定供給を目指しています。省農薬で安心安全なりんごの生産の苦労話など生産者と交流もいたします。帰りに立ち寄る松川町内の温泉「清流苑」の露天風呂も楽しみです。家族そろっての参加も歓迎いたします。

問い合わせ先 : kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加申込 : <http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>

生協りんごの予約注文を受け付けています

教職員委員会では、F エースりんごの生産者との長年の交流において、形が悪かったり、少し傷があったりして市場に出せない B 級品の買い取り手に困っていた時に、それを買取って、生協まつりで組合員の皆様に安価で美味しいりんごを提供してきました。生協まつりを開催しなくなってからは、予約注文という形で B 級品 10kg 箱入り（24 個程度の無選別だから大きさはまちまち）を 2,400 円で提供しています。利益は赤ちょうちんの収益とあわせて「ユニセフ」に募金いたしております。贈答用には向きませんが、家庭で食べるにはとても安くなっていますのでおすすめです。

ご注文は上の問い合わせアドレスにメールにてご注文ください。配達 は 12 月 10 日以降になる予定です。注文締切は、12 月 5 日（水）となります。お問い合わせ、ご注文をお待ちしております。

第 20 回音としゃべりの金曜サロン
ホ ッ ト ・ ジ ャ ズ ラ イ ブ at 師 走

出演: **小林美千代カルテット + 司いつ子 (Vo)**



小林美千代 (alto sax)



日景修 (base)



司いつ子 (vocal)



山下佳孝 (drums)



杉山麻子 (piano)

日時: **12月7日 (金) 18時~**

会場: **フレンドリィ南部**

参加費: **1,500円 (夕食付き) 完全予約制**

今回の「音としゃべりの金曜サロン」は名古屋を拠点に演奏活動をしている小林美千代カルテット + 司いつ子を招きホットなジャズライブをお届けいたします。演奏曲として「星に願いを」、「枯葉」、「スーパースター (カーペンターズ)」、「この素晴らしい世界」など歌われる予定です。

組合員であればどなたでも参加できます。たくさんの組合員の方のご参加をお待ちしております。家族・友人との参加も可能です。ライブならではの演奏とトークそして美味しい食事を取りながら一緒に楽しみましょう。

申込みは: <http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>

簡略プロフィール

小林美千代: 名古屋生まれ。中部地方を代表する女性サクソ奏者。スピード感あるブローが力強い。

司 いつ子: ニューヨークで Jazz と出会い、ポピュラーからジャズに。ビターでスイートな歌声。

日景 修: 金沢大学でジャズをはじめ、卒業後、本格的にプロ活動開始。実力派ベーシスト。

杉山 麻子: 大学入学後ジャズピアノを始め、プロ活動を開始する。クールスタイルの要素が強い。

山下 佳孝: 大学卒業後ニューヨークに留学、アフリカやブラジルのパーカッションも学ぶ。

中国人殉難者慰霊祭に至る3つの美談

全学技術センター 河合利秀

毎年、生協の平和ツアーということで、中国人殉難者瑞浪市供養会の主催する中国人殉難者慰霊祭に参加している。

この慰霊祭は、日中戦争の事実上の開戦となった柳条湖事件が起きた9月18日に最も近い日曜日（9月16日）に毎年実施されている平和を願う催し物である。

保守の強固な基盤となつてい

瑞浪市の市長始め市議会議員以下教育委員会に至るまで、公の行事として一同に会し、化石山にある日中不再戦の碑の前で日中平和を訴えるこの集会は、戦時中の追い詰められた日本人が持ちえた僅かな良心と、それに応えた中国人たちの良心の連鎖反応を、今日まで絶えることなく新たな感動と決意を繰り返してきた、極めて稀な催し物でもある。

今回は中国からの留学生1名を含む3名の学生を連れて、この慰霊祭に参加した。

中国大使館からは一等書記官も参列しており、最近では中京女子大学の中国人留学生が中国の若い世代を代表してスピーチするようになったが、これは名古屋大学生協から短期交換留学生を慰霊祭に参加させたのがきつ

かけとなったものである。

留学生たちはこのような慰霊祭が日本の田舎の町を挙げて執り行われていることに大いに驚き、そしてみな感動して帰途につく。

人間の良心を信頼すれば、きつと地上から争いごとを無くすことができないのではないかと思う人。政府の心無い人たちとは違った関係がここにはあつて、これこそ未来の日中関係の核心があると心に刻む人など、これからの日中関係を考えれば、ここに来た中国人は必ず日本人の真心と良心を信頼し、困難な局面にあつても道を切り開いてくれる礎になつてくれると思う。

瑞浪の化石山中国人殉難者慰霊祭がこのような形になつたのは3つの美談がある。

戦争末期、日本軍は本土決戦に臨み、軍需工場を山間地に疎開することを計画した。瑞浪の化石山に縦横にトンネルを掘り、そこに名古屋の飛行機工場を移そうとしたのだ。このトンネル工事は中国から強制連行された人々が当たられされた。御岳の牧尾ダム建設工事ですでに疲弊した中国人作業者を大勢連行して、トンネル工事に当たらせたとの

ある。

当初は遠巻きにしていた住民も、この中国人たちを見て哀れに思い、官憲の目を盗んで野菜くずや芋を差し入れた。これが第一の美談である。

終戦後、中国人たちは地元民に仕返すのではなく、差し入れてくれたおかげで命を永らえることができたとして地元の家々を回り、丁重にお礼を述べたというのだ。これが第二の美談である。こうした中国人の礼節ある態度に多くの住民は驚き、中国文化の奥深さを知り、そして尊敬の念を抱いた。

この地域から出征した兵士も多数いた。そして中国戦線では三光作戦など悪行三昧。暴力と掠奪の限りを尽くし、そして捕虜になった。

捕虜たちはいつ殺されるかと恐れおののき、白米の食事と清潔な衣服、風呂への入浴など丁重な扱いもあらず処刑されるのはと素直に受け入れられない。当然である。しかし、

「あなたたちの仕事はなぜ戦争になつたかを勉強し、考えなさい。」という中国八路军の将校の言葉通り、勉強、勉強の毎日。ソ連のシベリア抑

留とは大違いの厚遇であつた。これが第三の美談である。

捕虜たちは祖国復興に力を尽くせと帰国を許され、故郷の復興を支えた。その中に教員になったものも多い。彼らは郷土の歴史発掘の中で化石山の事件を知り、中国人犠牲者の氏名も明らかにする。そこで3つの美談が執り行われることになった。以後、街の要職に赴いた人々も中国人の寛容な精神と人格の気高さを知り、公式な催し物へと発展した。

征服するものと征服されるものの間に通つた良心と信念の細い糸は、こうして太い絆となつた。一人でも多くの新しい次代の若い世代にこの絆を委ねたいと思うのは、著者一人ではないだろう。

このような取り組みに毎年何らかの形で協力できることは、このうえない喜びである。

（2007年9月26日）



ツアーに参加した学生

9月30日、平和憲章委員会との共催で立命館大学国際平和ミュージアム見学ツアーを開催し、学生2名、教職員2名が参加しました。紙面の制約の関係で参加した2名の学生の感想を載せて報告いたします。

戦後の方がより弱者ばかりが犠牲になっている

文学部3年 石橋歌織
今回、初めて国際平和ミュージアムを見学しましたが、はつと気づかされることが多く、当たり前だけれど、普段気づくことの無い大切なことを学びました。

満州国建国に始まる15年戦争の中で、日本がアジアの人々へどのようなことを行い、日本という国への恐怖を植えつけ、そして未だに忘れることの出来ない怒りを起こさせてきたか、多くの展示品やパネル説明で私は気づきました。私たちにあって過去と感じている戦争のことは、私たちが原爆の悲しみを忘れることが出来ないのと同じように、アジアの人々にとっては忘れられないものであったのです。確かに、日本は戦争で多くのものを失い、つらい経験を数多くしてきました。ミュージアムの展示品の多くから、戦争へと向かう国に翻弄される人々の生活のつらさや、愛する人を戦争で亡

くしてしまう悲しみなどが伝わってきました。日本は原爆被害に代表されるように、戦争の被害者であったことは事実だと思います。しかし、アジアの人々にとってもそれは同じで、むしろ日本は加害者以外の何者でもなかったのです。このことは、当たり前のことだけれど、私にはなかなか気づくことの出来ないことでした。そして改めて戦争が何も生み出すことのないものであることを再認識しました。

また、このミュージアムでは、第2次世界大戦後の世界の状況も、詳細に紹介してありました。その展示から、戦後も世界では戦争や紛争がなくなることはなく、今この瞬間でさえ平和の状況にいないことのない人々が存在することに、私は改めて気づかされました。恐ろしいことに私たちが平和であると感じている第2次世界大戦後の今の方が、お金と権力を持つ人々に比べて、子どもや貧しい人々など社会的弱者ばかりが犠牲になっているという事実、これは普段の日常を過ごしている私には気づけなかったことです。このような世界の中で、戦争の被害者でもあり、加害者でもある、『平和な日本』は、どのような役割をすべきでしょうか。そして、その国民である、日本人である私たちが何をすべきでしょうか。私

たちはそれについて考えなければならぬと思います。そして被害者にも加害者にもならない戦争をしない国づくりをしなければならぬと思います。

私は少しですが、平和に関する活動に関わっています。ミュージアムでは戦争や紛争の恐ろしさだけではなく、そこから生まれた世界での平和運動についても展示してありました。民間や公の団体を問わず、平和を希求する人はこんなにも多いのだと、少しだけ勇気をもらいました。この勇気を糧に、できることから取り組んでいきたい、と感じました。今回の見学は、今後の私たちがどうすべきか改めて考えさせられた、充実した見学であったと思います。

暴力のない安心のもとで生活できる状態にできることから

法学部3年 鈴木結子
今回の国際平和ミュージアムは、私にとって二回目の見学となりましたが、それによってより深い学びができたように思います。

国際平和ミュージアムは、十五年戦争によって、日本の受けた被害を伝え、それを繰り返すことのないよう提案するとともに、日本の加害行為、特に立命館大学が、戦中に国家主義的な教育をしていたことについても、真

摯な姿勢で受けとめ、展示として残していることに、価値があると思います。また、平和とは何か？ ということについても、「戦争がないこと」にとどまらず、構造的暴力、文化的暴力のない、安定と安心のもとに生活のできる状態を求め、できることから実現していくことが大切であると気づかされました。

このことを実現していくために、私には何ができるのか、ということ、考えさせられます。戦争がなくなり、飢えや環境問題、性暴力といったことの不安なく生活できる社会の創造のために、私にできることはないように感じられます。

私は今、憲法9条を守る運動に関わらせてもらっています。日本が日本として戦争に関わり、世界で、人々を傷つけることのないようにしようとする、この運動が、平和の創造に少しでも意味があるのなら、私の小さな力、小さな声に少しでも意味があるのなら、私は声をあげよう。そう思いました。

平和ミュージアムには、子どもたちの可愛らしい笑顔のパネルが掲げられていました。この笑顔が消えないようにするのは、これからの社会を担っていく私たちの仕事であると思います。私にできる小さなことを、続けていきたいです。

2007年オキナワの旅②

沖縄民謡 琉球舞踊 食文化

全学技術センター河合利秀



島唄居酒屋「きらら」の島唄ライブ



飛び入り参加もあり

「2007オキナワの旅」の続編です。今回は、沖縄の文化を中心にレポートします。

1、沖縄民謡と島歌

ホテル日光の案内にあったおすすめの民謡酒場（島唄居酒屋きらら）へ行ってみました。沖縄料理は安価で味も納得。ライブは普通チャージ料金が高いのですがここは1ステージ500円、1日3回ステージで各ステージ毎の締めはお客様と一緒に力チャージ。気楽に行けるお店です。

島歌の演奏ですが、これが驚くほど水準が高い。実力のある奏者が順に出演しているようで、Webの口コミサイトでも絶賛！。ここで島歌のファンになる人が結構いる

ようです。

軽妙な司会は明るく楽しく、沖縄の地ビール「オリオンビール」の宣伝歌もお客様と一緒に唱和し、時折リクエストにも応えながら最後はみなで力チャージを踊るこのお店、◎推薦です。

私たちが行った時は、ベテランの男性歌手（司会・三線も担当）と若い女性歌手の2人組みで、有名な曲目ではリクエストしたお客様にマイクを持たせて演奏を完結してしまう柔軟性は見事というしみありません。

三線の超絶技巧ともいえるべき早弾きも驚きでしたが、若い女性歌手にはもつと驚かされました。石垣島在住の18歳、この春高校を卒業して老人福祉センターで介護の仕事についているというこの歌姫は、島歌独特の声といい節回しといい、太鼓や四竹のテクニクといい、いつ

ブレークしてもおかしくないほど完成された演奏でした。

・島歌の魅力

「島歌」といっても、実は色々あります。

本来は奄美大島の民謡のことです。代表選手は元ちとせさんですね。たおやかな歌声は、独特の節回しと共に一世を風靡しました。

しかし、最近では、沖縄の八重山諸島、宮古島、石垣島、沖縄本島なども含めた沖縄・奄美諸島の民謡をひっくるめて「島歌」と呼んでいるようです。これらの民謡には独特の節回しと声の使い方があり、言葉（方言）も少しずつ違っていろいろです。私たちは区別できませんがウチナンチュー（沖縄の人々）には違いが聞き取れるようで、その違いを笑いにする演目もあります。

沖縄民謡（島歌）の第一人者は嘉手苅林昌さんです。戦後沖縄各地を回り、その地方の民謡発掘と保存に力を注ぎ、島歌の神様と言われた人です。30枚近くのアルバムが出ているので一度は聞いた人もいると思いますが、その洒落な歌いまわしと人を食ったような芸風は沖縄の人々の柔軟性と強情さをそのまま体



現しているようにも思います。
嘉手苧林昌の発声法は独特で、枯れた声なのに力強く、潮風に削られた断崖の岩とそこに根を張る松の太木の、風が通り抜けるときに発するヒューツという音に似て、しかし風の音とは明らかに違う人の声なのです。腹から搾り出す芯の強い母音と遠くまで聞こえる明瞭な子音は、海風に負けずに遠くまで聞こえます。今のように音響設備のなかった時代、屋外での演奏を生き業とすれば不可欠のものだったにちがひありません。

西洋音楽とは全く違った発声法であり、日本の民謡や古典の謡とも違っていている。むしろ、モンゴルの草原に生きる人々の発声法と共通する声のように思えます。両者の共通点は、強い風に負けないで遠くまでうたごえが伝わる・・・ということでしょう。

この発声法は島歌の歌い方に大きく影響し、現代の歌い手たちに受け継がれています。

このように自然に備わった声ですが、特に女性の歌声は一度聞いたら人生を引き込まれそうな魔力を秘めています。なよなよしているようにも聞こえますが実は芯が強い声は独特の色気があります。驚くほどゆったりしたテンポの中に垣間見えるリズムの強さと余韻の深さは聞くものを情念の世界に誘うようでもあります。先に紹介した島歌居酒屋「きらら」で聴いた島歌ですが、このような奥深さを18歳の若い歌い手が身につけているのですから、驚嘆です。

2、琉球舞踊

沖縄は舞踊がとて盛んです。琉球舞踊をたしなんでいる息子

曰く、喫茶店の数より琉球舞踊の道場の数の方が多い地域もあるとのこと。その真偽はともかく、街を歩いていると確かに琉球舞踊道場の看板を見かけます。

琉球舞踊は琉球王朝の古典舞踊と民衆の雑踊り（ぞうおどり）を継承し、空手などの武道の所作を融合させて新たな舞踊を創作するなど、近代になつてからの展開もあつて、大きく6流派があり、互いに競い合つて、総合芸術へと昇華させています。

毎年郷土芸能のコンクールがあつて、舞踊の伴奏にあたる器楽演奏や謡も含めて切磋琢磨しています。最近はやマドンチューの参加も多く、私の息子も古典舞踊の部で2003年に新人賞をいただきましたが、毎年新たに新人舞踊家として数十名が名乗りを上げる・・・という盛況ぶりには驚かされます。

琉球舞踊は、大きく4つに分類することができます。中国からの使者・冊封使（さつぽうし）を歓待するために発達した宮廷舞踊を中心とした優美な古典舞

踊、近代に入つて創作された躍動感ある振り付けで庶民の生活を写す雑踊り、沖縄本島を含む各地で継承されているエネルギッシュな民俗舞踊、そして戦後の琉球文化復興運動で盛んに演じられた創作舞踊です。

古典舞踊には舞踊・音楽・演劇の3要素で構成された沖縄独自の戯曲をもつ「組踊」を含みます。これは琉球王朝時代に創作・上演されたもので、明治以降古典の宮廷舞踊が寂れていく



雑踊りの黒島口説「クルシマクツチ」の練習

中でその芸術性および芸能史的な価値から、能楽や歌舞伎と並んで国の重要無形文化財に指定されています。

・首里城の演舞会「琉球王朝」舞への誘い」

首里城で毎週指定日に演じられているのが「琉球王朝」舞への誘い」です。入場料を払って中庭に入るとその右手に演舞会場があり、1日3回、琉球舞踊が一般に披露されています。

「琉球王朝」舞への誘い」は

観光客に気軽に琉球舞踊を楽しんでもらおうと始まった演舞会ですが、琉球舞踊の基本的な演目がそろい、中堅・若手舞踊家が腕を競う場となっており、時には熱気を帯びた名演に遭遇することもあります。

私自身は息子の舞台も含め、相当数の舞台を見ていますが、今回首里城で上演されていたものはレベルも高く、途中スコールが降りしきる中でも集中力を持続させた立派なものでした。このようなレベルの高い演舞を

首里城で見られたのはとても幸運でした。なかでも諸屯（シュドゥン）は極限までそぎ落とされた単純な所作だけで女の情念を表現、目の演技に注目。

・沖縄県立郷土劇場の「かりゆし芸能公演」

那覇の沖縄県立郷土劇場で毎日行われている琉球舞踊演舞会は「かりゆし芸能公演」として前売り券をコンビニで購入できることもあり、日程さえ合えば質の高い琉球舞踊を手軽に楽しむことが出来ます。

「かりゆし芸能公演」は各流派が中堅・若手にキャリアを積ませる格好の場として、あるいは観光客に琉球舞踊の面白さを伝える舞台として企画・上演されており、各流派の最上の公演ではないものの、若手舞踊家の登竜門として、若手とベテランの交流の場として有効に機能しています。

私が今回見た演目は10題、必ず最初に上演される「かぎやで風」から始まりましたが、前半は古典舞踊中心の演目にもかかわらず緊張感が乏しい

平凡な出来の舞台が続き、大いに心配しました。

しかし後半になると一変。松竹梅鶴亀、かしかけ、糸満乙女などお馴染みの雑踊り中心の演目となり、活気あふれる庶民の心情が闊達に舞われ、醜女と美女の対比が滑稽な仮面踊りの「シュンドウ」は快演で常連さんと思しき入場者からも盛んに歓声が上がるなど、この流派の最上の舞を観せてもらったという満足感がありました。

（解説：シュンドウは不思議な演目、仮面をつけた醜女（しこめ）は、権力者の妾になった美女（元妻）に捨てられた元夫との説もあり、一般的な解釈よりもずっとおもしろい。）

3、沖縄の食文化

沖縄の食文化は独特なものがあります。特徴は、中国文化と日本文化の末端で醸成されたものに戦後のアメリカ文化も入り込んで、これを沖縄風にアレンジして自分たちの生活に馴染ませているところにあります。

沖縄が日本のなかでも長寿の県であることは良く知られていますね。その大元はこの食文化があることは容易に想像できる



カシカキ

諸屯



マキシの豚肉専門店
豚の顔の塩漬けも小さく切って煮て食べます。

でしょう。ヘルシーで美味しい。これが沖縄料理の特徴・・・という、まるで沖縄の観光ガイドのようですが、名古屋にも沖縄家庭料理のお店が結構あるので、是非ともそれを実感してみてください。

こうした沖縄の食文化を丸ごと体験できるのが牧志(マキシ)の公設市場です。那覇の国際通り中ほどに位置する牧志公設市場は、沖縄の食材の全てが集まっています。

・**沖縄料理の代表的な食材は昆布**
沖縄の食で最も大きな特徴は、昆布の消費量が日本一というこ

とです。昆布は北海道で取れますね。その最大の消費地が沖縄であることはあまり知られていません。沖縄の料理には細かく刻んだ昆布がよく登場します。出汁をとるといいう使い方だけではなく、積極的に昆布を食べるのです。

昆布は海草なのでミネラルが豊富、ヌルヌルの元になっている多糖類は食物繊維の代表ですね。昆布は健康食品の代表選手なのです。

・豚肉文化・豚肉の塩漬け

もう一つの大きな特徴は、豚肉です。日本食に比べて豚肉料理の種類がとても多い。その特徴は豚一頭を余すところなく食べることです。

例えば、テビチ。これは豚の足を煮込んだものです。ラフテーは豚の皮付き肉を泡盛で煮込んだもの、ソーキは骨付き肉を煮込んだものです。この他にもたくさんあります。ミミガーは豚の耳を軟骨ごと薄切りにしたもの、なかみ汁は豚の内蔵を汁仕立てにしたものなど・・・どれもコラーゲンたっぷりで、現代的な観点からすると、美容食の最たるものと言えるでしょう。そのなかでも、今回の発見は「豚肉の塩漬け」。

オキタビ第4日目のフリータイム・ミニツアーで半日契約したタクシー運転手から教えてもらった食材に、豚肉の塩漬けがありました。中村家に行く途中で聞いたものですが、冷蔵庫のない時代、豚肉はみな塩漬けにして保存したそうで、薄切りにして軽く焼くだけでとても美味しいとのこと。細切りにして野菜と一緒に炒めればそれで立派な一品になると教わりました。

この日の夕食は那覇の国際通りから少し入った「なかや食堂」。

沖縄の家庭料理を安価に食べられるこのお店のメニューを見ると、その日聞いたばかりの豚の塩漬け肉があり、早速注文しました。4〜5mmの厚さに切ってそのまま軽く焼いたものですが、これが予想どおり、香ばしいなかにもやや甘い香りは食欲をそそります。一口食べてみると、豚肉の旨みが凝縮されていて、しかもしつこくなく口いっぱいに広がります。沖縄の天然塩のミネラルのせいか、脂身のほんのりとした甘さがにじみ出る独特の風味は、ご飯のおかずにも、ビールつまみにもバッチリ。

豚肉の塩漬けと野菜の炒めものも美味しいだろうと思います。次回訪れた時はお土産で持ち帰ろうと思います。



すく豆腐
島豆腐の上にスクガラスを載せたもの。
泡盛つまみにどうぞ。

ろうと思います。

・島豆腐

シマドーフ(島豆腐)も沖縄ならではの食材です。日本本土の豆腐とは違って、お店には暖かい状態で売られています。一丁の大きさは本土の豆腐の約2倍。木綿豆腐よりも固めですが豆の香りと旨みが強いのが特徴です。

島豆腐はにがりの代わりに海水を使います。そのために独特の風味があつて、そのまま食べても美味しいのですが、だし汁に豆腐をあわせただけのゆし豆腐が絶品です。

お酒を飲みすぎて胃が荒れたときなど、優しい喉ごしと淡い中にも深い味わいもあつて、食欲を取り戻し、すっかり食べられます。



・新鮮な魚たち
沖縄料理に欠かせないのは新鮮な魚です。
一度は食べてほしいと思うものに、グルクンの唐揚げがあります。グルクンとは「たかさご」というフエダイの仲間の魚で、夏が旬。特に6月の産卵前が美味しいと言われています。15〜20cmの少し小型の方が美味しく食べられます。

青ブダイ(イラブチャー)は刺身が美味しい。青い色は不気味と思う人もいますが、皮の側を軽くあぶって刺身にしたらものが絶品。元々青ブダイは蛋白な味なので皮を剥いてしまうと旨みが減ってしまいます。魚は身と皮の間が最も美味しいといわれますが、青ブダイはまさにその通り。皮をうまく使った「たたき」が一番美味しくいただけます。

ごまアイゴ
(エーグアー)の煮付けも絶品です。アイゴは南方系の魚で、最近では愛知県の豊浜でもちよく釣れるのですが、磯臭いのが難点。新鮮なうちに下処理するのが大切で、上手に処理できれば刺身でも美味しい。しかし、やはり煮付けが一番。みりんと醤油を半々に生姜を添えて煮付けたものは身離れも良く箸に乗り、醬

油に負けない魚の旨みが口に広がります。

・沖縄ならではの食材たち

島ラッキョウ、苦瓜(ゴーヤ)、紅芋、沖縄モズク、海ぶどう、あおさ(アーサー)など、自然のものから、スクガラス(アイゴの稚魚の塩辛)、ワラガラス(カツオの内臓の塩辛)、豆腐のような発酵食品まで、沖縄ならではの食材は、みな独特の風味があり、健康食品でもあり、きることならシンプルな料理で楽しめます。

ゴーヤは最近どこでも手に入るようになりましたが、その他は手に入りませんので、沖縄料理のお店に入ったら是非とも一品は注文してみてください。好き嫌いはありますが、一度挑んでみてほしいと思います。



島ラッキョウ
鰹節をのせて醤油をかけていただく。



グルクンの唐揚げ
この大きさと少々骨が硬い。もう少し小さい方がよい。

教職員委員会下期方針合宿報告

9月8日(土)から9日(日)にかけて教職員委員会は内海料理旅館「はしもと」にて、教職員4名、星野副理事長、今井専務、加藤理事会室長の7名参加で下期方針合宿を開催しました。

8日9時に北部厚生会館集合して、四谷ICから名古屋都市高速、南知多道路を通って内海を目指す。まだ、残暑の続く雲一つない晴天の日となった。途中、名鉄内海駅で現地集合組を乗せて合宿会場「はしもと」に10時30分に到着。

合宿は翌9日の昼までの1日半の日程で半年に一度開催しています。今回も海の幸の美味しい内海での開催となりました。日頃メール会議が多いので、委員同士の交流懇談として親密になれる機会でもあります。

以下の方針にあるような組合員の生活と文化の向上を目指して、文化講演会やスポーツ交流、レクリエーション活動、産地・工場見学などに関心があり、一緒に企画してみたいと思われる方は、委員会に加わってみませんか。現在、委員会メンバー大募集しておりますので、kyoshoku-c@cop.nagoya-u.ac.jp まで一報ください。特に若い教職委

員の皆さん大歓迎です。

委員会合宿は、上期に行ってきた総代選出、総代会の開催、かけはしの発行、平和の取り組みなどを総括し、秋から春に向けて次の活動を行うことを決め、1日半の日程を終了しました。

教職員委員会の下期活動方針組織活動

○加入・増資キャンペーン

生協強化月間(9月1日～11月30日)に加入・増資キャンペーンを実施し、加入および基本出資金(2万円)まで増資された方には名刺印刷優待券(両面印刷1000枚1ケース以上で2千円引き)、秋の委員会企画半額ご優待と粗品を進呈いたします。是非この機会に加入および増資をしましょう。

○総代会議

秋の委員会企画、生協店舗の取り組み紹介、理系地区店舗、改装後の北部購買部など生協に対する意見・要望を交流します。(毎月第2水曜日の昼)

○利用者懇談会

各建物毎で開催できるように準備します。開催希望がありましたらご連絡下さい。

機関紙活動

かけはしを奇数月に発行し、

研究科長インタビューを継続して掲載します。生協からの情報と組合員の交流・情報誌となるよう努めます。

コープカルチャーセンター企画

○中山道ハイキング(11月3日)

○音としやべりの金曜サロン(5頁参照)

○歌声喫茶

職員合唱団の全面的協力を得て60年代全盛期だったうたごえ喫茶を行います(日程未定)

○文化講演会(検討課題)

平和・環境活動

○瑞浪中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学(9月16日)

○平和憲章制定20周年記念企画映画「硫黄島からの手紙」(2月5日)、映画「父親たちの星条旗」(2月12日)上映会

○環境講演会(検討課題)

○フィールドワークリサイクル

○ルートを訪ねて(検討課題)

○環境講演会(検討課題)

○フィールドワークリサイクル

○ルートを訪ねて(検討課題)

組合員交流企画

(本紙裏表紙参照)

工場・産地見学

○生協りんこの産地見学(4頁)

東海地域センターおよび

全国との連帯活動

○東海地域センター教職員活動交流セミナー(12月1～2日)

と多彩な企画を開催しますので、ご期待下さい。

教職員委員会活動日誌(2007年9・10月)

月 日	事 項	場 所
8月27日～9月1日	オキナワの旅	沖縄県
9月8～9日	教職員委員会下期方針合宿	内海「はしもと」
10日(月)	東海地域センター地域部会	地域センター東海会館
16日(日)	瑞浪中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学	瑞浪市
16日(日)	全国地域センター教職員委員長会議	小倉市商工会議所
22日(土)	東海地域センター理事会	地域センター東海会館
25日(火)	9月度理事会	フレンドリー南部
30日(日)	立命館大学国際平和ミュージアム見学ツアー	京都市立命館大学
10月9日(火)	10月度常任理事会	ゆ～どん
13日(土)	中山道ハイキング2の下見	恵那市→中津川市
18日(木)	東海地域センター教職員委員会三役会議	ホテル「ル・ウエスト」
19日(金)	平和憲章委員会	組合書記局
22日(月)	10月度理事会	フレンドリー南部

言

銀

杏

魔

こう書いて、ギンナンともイチヨウとも読む。ギンナンはご承知の通り、イチヨウの実だ。イチヨウという木には色々の名前がある。「公孫樹」と書いたり、「鴨脚樹」と書くことは御承知だと思う。なぜ、これを「イチヨウ」というのかという名前の語源については、広辞苑の編者新村出氏が色々考察しているけれども、なるほどと素直に納得できる答えは残念ながら無い。

それはともかくとして、イチヨウは街路樹として、或いは、神社や仏閣の立木として親しい木だ。鎌倉鶴岡八幡宮の銀杏の木は実朝の悲劇を見た木だろうか。巨木が多い。秋、真っ黄色に色づいた黄葉は見事だ。尤も、街路樹としては、その水分の多い落ち葉が散り敷いて、時には車も滑ったりするから厄介だ。集めて燃やすのも中々大変である。イチヨウの木そのものが随分水を沢山含んでいる。火事の延焼防ぐために植えるということも聞く。実際、火事の時、イチヨウが水を吹いたという言い伝え

もある。子供の頃、風呂の焚き物としてイチヨウの枝を燃やしたことがあったが、ジュウジュウいつていっかなもえなかったことをおもいだす。楠などとは大違いだ。

日本ではボビユラーな木だが、インドネシアからの学生はこれを知らなかった。一度、わざわざその黄葉のシーズンに一緒に見に行ったことがある。

今年は、未だ、九月も半ばに、もうその実が黄色く熟れて、道路のそこそこに落ちている。いつもの年はいつ頃なのか、はっきり覚えていないけれども、今年は何か早いような気がする。本当のところはどうなのだろう。銀杏は雌雄異株である。雌の木の下には一杯その実が落ちる。実の付いている雌株は私の目分量で言うと3本から5本に1本というところのように思う。道路では、その実が車に踏まれて、白くなっており、独特の匂いがする。お年寄り達が、それをせつせと拾っている姿をよく見かける。是非、交通事故に遭わない

ようにお願いしたい。

この折角のギンナンをあたらずに無駄にするのは誠に勿体ない。以前、大阪の御堂筋の銀杏を木毎、業者者に一本幾らで売ってギンナンを取らせたということを聞いたことがある。さすが、大阪らしいと思っただが、今はどうしているのだろうか。名古屋でも是非、無駄にせず活用の方法を考えて欲しいものだ。

学校に生えているのなどは子供に取らせれば良いと思うが、ただ、注意が必要だ。私の経験でいうと、今は平気になったが、子供の頃は、何かということかぶれた。漆は酷かった。漆塗りのお椀や皿や箸でもかぶれた。その風が当たっただけで駄目だった。中学生の頃だったが、輪島に行った時、漆器工場の見

学があつたが残念ながら遠慮した。かぶれると、体中が真っ赤にはれて痒いことこの上なかった。一度ギンナンでもかぶれた。かぶれたときにはとにかくはやくその毒素を体外に出さなければというので、番茶をがぶがぶ飲んで、小便を一生懸命した覚えがある。あの、黄色い部分は独特の匂いと共に、かぶれさせる物質を含んでいる。全く平気な子もいる。

焼きギンナンは美味しい。ピールの摘みみにはもってこいだ。只、物の本で読んだが、焼きギンナンはおしつこを止める作用があるそうだから、調子に乗って余り食べない方が無事だと思う。又、焼くときには破裂させて怪我をしないように気をつけて欲しい。

山高きが故に尊からずや 人多きが故に……

何でも数が有れば、というわけにはいかない。中身が問題である。

人

と成れ人人と成せ人という、「人」づくしの歌がある。普通の人と、しっかりした人とを同じ「人」という言葉で表し

魔

防衛も何も出来ない。受講しようとする学生に何の責任もない。開講

たものだ。「月々に月見る月は多けれど月見る月はこの月の月」などと同工異曲。

最近、何処の大学でも、受講者の少ない講義を受講者が少ないと言うだけの理由で廃止してしまう事を聞く。受講者がゼロならば仕方なからう。しかし、一人でも受講者がいる限り、最初に大学が開講しますと約束した以上はきちんと開講すべきである。以後、その科目をどうすべきかということを経験の事情を考へて処置すべきである。ただ、受講者が規定に達しないというだけで事務的に閉鎖すべきものではない。閉鎖するにも仕方がある。いろいろ工夫が必要だが、誰もが満足するような方法があるはずはない。

受講を希望した学生にはそれぞれの理由がある。閉講になっても特に困らないのも居ようが、多くは、其れを希望し、或いは必要があつて受講している。他の学生が受講するかどうかなどは特に関係ない。そんなことを考へて受講するわけではない。

結果的に受講者が少ないとその時間が閉鎖されるというのは

しようとした教員にも学生を集められなかったということが責任といへばそうかも知れないが、学生集めのために、学生に迎合するようなことが有れば、限りなく腐敗と破滅に近づいている。近年、授業アンケートなるものがよく行われる。丸で参考にならないわけではないが、やはり、無記名の回答にはそれだけの限界がある。その中で、私の場合を引き合いに出せば、「内容が難しい」という指摘が常にあつて、私は、前もつて言うことにしている。大学の講義は寝ころんでテレビを見ているようなわけにはいかないのだと。ちゃんと理解するためには、要求された準備はしなければならないし、

もしたら、どうしたら

色々の場面で、「もし、どうしたら」とか「もしたら」どうしよう、という相談とも、愚痴ともつかぬ事を聞く。

たしか、良寛さんの言葉だったと思う、「災難を逃るるにいと易き法あり」、「災難に遭うときは災難に遭うが良きに候」というのである。逃れることが出

何より、出席して、話をよく聞かなければならない。そして、分からなければ、何度でも聞け、質問は歓迎すると。

昨今の大学生にこれを要求する方が間違いだということも聞くが、それではと、難しい講義は止めて面白可笑しく学生を接待するばかりが能ではなからう。それを喜ぶ学生もいるだろうが、そんなことに愛想を尽かして去る学生も居よう。何より、そんなレジャーランド化した大学だという評判を恐れる。大学を活性化するには、教員、事務員の協力関係が重要だが、それと共に学生を含めた全構成員の「士気を高める」ということがとても重要だ。(T)

して、逃れられることは逃れるように手立てを講ずるほか無い。ああしておけば良かったとか、なんとかいう後知恵、後悔はなんにも成らない。

杞憂という言葉もある。標題の中にはこの杞憂に属することもある。有ろう筈もない妄想を描いているのである。そういう人は楽しんでゐるのかも知れないから、それは放っておくほかない。

ただ、やはり、「もしたら、どうしよう」式の心配は多いようだ。

若い頃、私自身、随分先のことまで気にして、こんな心配事を言つた覚えがある。師匠は、その時はその時、と一言。そんなものかと当時は不満だったが、考へてみればそれが正解。そうして、どうにもならぬ事は、とにかくどうにもならないのである。人の生き死にすらそうである。益して、その他のことにおいてをやである。何事も、成るようになしか成らないのである。かといつて、やけくそになつたり、無責任になつたりするのはない。とにかく現状を正しくありのままに認める所から、後の手立ては考へられるのである。(T)

言

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ③

東山キャンパスに持ち込まれたゾウムシ

全学技術センター 井上晶次



写真1 ポブライネゾウモドキ
(左端は1mm方眼紙、以下同じ)

このゾウムシの愛知県での採集記録は、名古屋市内の名東区猪高緑地のヤマナラシと東山キャンパスのヤマナラシだけです。農学部の手製紙から移植されたところから移植されたことです。その後、農学部の圃場内のヤマナラシが伐

東山キャンパスには多様な植物があります、研究用などに他の場所から移植された植物もあります。今回は、移植された植物から採集したゾウムシを紹介します。

1. ポブライネゾウモドキ
ポブライネゾウモドキ(写真1)は、体長4.5mm程度、上翅に黒色と茶色の模様があります。1983年4月農学部の圃場内のヤマナラシで大量に発生しているのを確認し多数採集しました。採集した当時は今のようにそれほどゾウムシにはまっていなかったもので、大して珍しいとは思わず、しかしひそかには珍しいだろうと思い、同好者の集まりにこのゾウムシを持っていきましました。するとある方が「こ

んなのが名大で採れた、植物は、採集時期は」など熱心に質問され、「少し分けてください」といわれ、たくさん採集しているのので差し上げました。後で知ったのですが、この方はゾウムシの専門家で、その後15年ほどして再会したときに「井上さん、あのポブライネゾウモドキは驚きましたよ、名大で採集できたのなら岐阜にもいるに違いない」と思っ、そこらじゅうのヤマナラシをバンバンたたつからかしたけど採れなかったですね。」と話し掛けていただいたことがあります。最近ではゾウムシ仲間として親しくしていただいています。その後岐阜県では採集されているようです。

採されてからは発見できず東山キャンパスから絶滅したと考えられます。鏡が池の南岸にヤマナラシがあり、通勤の経路であるために4月になると注意して観察していますが見つかることはできません。また、近隣の平和公園のヤマナラシも観察していますが見つかることはできません。猪高緑地のヤマナラシも最近では伐採されたとのこと。このゾウムシは成虫の期間が短く採集しにくいよう。1984年に詳しく観察したところ、5月2日初見で10数頭を確認、その1週間後には100頭以上を確認、5月19日には確認できませんでした。つまり、身近な場所であれば発生時期に遭遇するチャンスがありますが、郊外では採集に行つた場合うまく発生時期に遭遇しにくいのではないかと考えています。

2. ヒラズネヒゲボソゾウムシ

ヒラズネヒゲボソゾウムシ(写真2)は、体長6mm程度、地味で鈍い色の多いゾウムシの中では緑色の金属光沢がある美しいゾウムシです。愛知県では4、5月ころ少し山のほうに行けばヒノ



写真2 ヒラズネヒゲボソゾウムシ

の太い腿節を見ると太い腿節をしています。さらにノミゾウムシの仲間には網に入っても、翅で飛ぶよりもピョンピョンと跳ねて逃げようと

キから採集できます。この近くでは豊田市の猿投山で採集できます。1頭見つければ周辺のヒノキから佃煮にするほど落ちてきます、珍しくもなく「またこれか」といった感じです。よく似たヒゲボソゾウムシの仲間はいますが、針葉樹から採集されるのは、この1種なので名前を間違えることはありません。

東山キャンパスからは2000年に農学部の研究用に植栽してあるヒノキから、こんなところにいたかという感じで採集しました。このヒノキについては、当時を知る農学部技術職員の方から、農学部の東山キャンパス移転時に岐阜営林署緑ヶ丘種苗の苗畑より移植されたとお聞きしました。このことから、

このゾウムシは大学構内に棲息していたのではなく、ヒノキとともに持ち込まれた種が継続して生息していると考えています。その後もほぼ毎年棲息していることを確認しています。

3. ニレノミゾウムシ

ニレノミゾウムシ(写真3)は体長3mm程度、赤褐色で上翅に黒色の丸い紋があります。前号でふれた〇〇+蚤+ゾウムシです。蚤に似ているか? 写真を見ても蚤は想像できません。写真1のポプライネゾウムシ、写真2のヒラズネヒゲボソゾウムシと後ろ足の太もも(昆虫の用語では後肢の腿節)を比べてみてください、ノミゾウムシの仲間はこの後肢の腿節が非常に太い



写真3 ニレノミゾウムシ

します。腿節の形状から蚤の名前がつけられたのか、跳ねる様子から蚤の名前がつけられたのかは知りません。

このゾウムシは2006年4月29日にハルニレから採集しました。理学部から環境医学研究所を左に見て、山の上のグラウンドに上っていく途中右側に平屋のプレハブがあるのがご存知でしょうか。このプレハブの前に榆の木があります、このハルニレから4頭採集しました。この榆の木は明らかにプレハブを建てたときに植栽されたように見受けられるので、プレハブが建てられた当時の先生にお聞きしたところ、理学部生物学科の〇先生に頂いた苗であることを教えていただきました。そこで〇先生に手紙を書いてお聞きしたところ、何の研究のためかを含む

めて丁寧な説明を頂きました。結論だけを書きますと、京都の(林業)試験所から頂いた苗であるとのこと。

愛知県でのニレノミゾウムシの記録は、「春日井市の交通公園のアキニレから得られた。付近には全くまとまった緑地帯がないのでこれも移入種であろう。木曽川河川敷のニレから得られている。ニレの木はどこからか運ばれて植栽されたという。」(東海地方のゾウムシ上科リスト <http://www.ob.aitai.ne.jp/~k-izawa/zou/list.htm>)となっています。そのほかに愛知県では採集記録が無く、このゾウムシもやはり榆の木とともに東山キャンパスに持ち込まれたと考えています。2007年4月〜5月にかけてこの榆の木でニレノミゾウムシの採集を試みましたが採集できませんでした。偶然何かの植物について持ち込まれたのが2006年に採集できたのでしょうか。とりあえず来年の春が楽しみです。

訂正

前号の表題「シギゾウムシ科」は「シギゾウムシ」の誤りです。

新フィールド・ノート — その103 —

小原村

情報科学研究科 広木詔三

十月一日、小雨の中を小原村に向かった。

おとしの十一月二十日に
行つて以来である。

八事から地下鉄赤池線に乗り、
豊田まで出る。赤池からは名鉄
豊田新線となり、電車は地上を
走る。この名鉄沿線には愛知大
学をはじめ、私学が多くある。
午前十一時頃だったが、学生風
の乗客が多い。豊田新線が開通
した頃にはこの沿線には大学は
まだ一つもなかった。

豊田駅を降りて、バス停に行つ
て驚いた。小原村行きのバスが
無い。しばし茫然としていた。
タクシーで行くほどの金銭的ゆ
とりはない。

しばらくして気づいた。小原
村の手前の木瀬^{きせ}で乗り換えに
なったことを。案内図に木瀬行
きの路線があった。胸をなでお
ろした。おとしもバスを乗り

継いで行つたことを思い出した。

弁当を仕入れ、バスに乗る。

名鉄バスが発車し、豊田駅の街
中から郊外に出ると、やがて田
園地帯を通過すると雨にかすん
だ丘陵が目に入ってくる。猿投
神社前を通過し、飯野の町を過
ぎると、もう緑一色である。

木瀬に着くと、そこから東濃
バスに乗り換えである。小原村
が豊田市に合併され、小原村ま
での直通バスが廃止されてし
まった。東濃バスに乗り込むと、
数人の乗客と運転手が話をして
いる。木瀬から先のバス路線か
ら東濃バスが撤退するようだ。
車をもつていない小原村の人た
ちは将来どうなるのだろう。構
造改革という名のもと、過疎地
切り捨て政策の現状に直面した
のであった。

一九七九年に、小原村での調
査で、村役場のある大草^{おおくさ}で旅館

に泊まったことがある。かつて
フィールドノートの第三回目に、
そのことを記している。七月に
一日中歩き通して、熱中症にな
り、宿で布団が濡れるほど汗を
かいたのであった。

小原村が豊田市に合併された
ということは、支所は残された
かも知れないが、村役場はな
くなったであろう。そうなるとも
う宿もないかも知れない。

私は小原村における植生と花
崗岩という地質との関連を三年
にわたって調査し、論文として
まとめている。その後も小原村
には別のテーマで近年まで毎年
通った。今回の調査もその続き
である。

木瀬^{おおいづくち}で乗り継いだ東濃バスを
次の大平口^{おおいづくち}で降りた。木瀬から
大平口までたった二区間だが、
歩くと相当な距離だ。雨はまだ
降っている。

バス停で川沿いに道を折れる。
川の両側に護岸が施されている
大平川は、幅五、六メートルの小
さな川であるが、岩場では白い
波しぶきをあげていて溪流の感
がある。よく見ると、砂の堆積

している部分と深い淵との違い
が見てとれる。

小原村に来るのは今年で最後
のつもりである。定年だからと
いうわけではない。ほぼ三十年
近くも継続した研究なのだ。当
初は五、六年もすれば決着が着く
のではと考えていた。二種類の
どんぐりを播いて生存率の差を
見るのが目的だ。毎年秋に来て
実生の生存個体の数を数えると
いう単純な仕事だ。妻が二度も
心臓の手術をしたこともあり、
労せずして論文を一つ稼ごうと
いうのがねらいだった。ところが
何と今年で二十八年目になる。

さまざまな想いがよぎる中、
川端にヒガンバナが咲いている
のが目に映った。一列に並んで
いるので人が植えたに違いない。
桜並木の桜の葉はだいぶ散って
しまっているが、その下にヒガ
ンバナが川の流れに沿うように
ずっと連なつて咲いていた。ヒ
ガンバナは別名マンジュシャゲ
とも呼ばれているが、その華やか
さは、まさにその名のとおり
天の上に居るような心地になる。
あの独特の真紅の花は、京劇の

華やかさを連想させる。

今年は九月に一時的に残暑の厳しさが戻ったが、長雨も続いて涼しい時期が続いたせいもあるのだろう、例年九月の中旬に咲くヒガンバナが十月に入ってもまだ開花の盛りとなっている。私の小原村での調査はいつも十月に入ってからなので、これまでヒガンバナを見たことがなかった。今年は十月に入ってもヒガンバナが咲いていて、その華やかな雰囲気浸れたことは、小原村での最後の調査ということもあって、感慨深い思いにとらわれた。一瞬ふと、入院中の妻はまだ生きているだろうか、という思いにとらわれたが、どこまでもつづくかと思われたヒガンバナがとても華やいだ気分に戻してくれる。

やがてヒガンバナも途絶え、そして目的地に到着する。花崗岩の風化した真砂を採掘した跡の裸地が目に入る。この裸地にアベマキとモンゴリナラのどんぐりを播き、どちらが長く生き残るかを見ようとしたのである。アベマキの方が早く消滅すると

いう予想で、二ヶ所のうち一ヶ所は予想どおりの結果が得られた。二十五個のどんぐりから芽生えたアベマキの実生はすべて枯死したのである。それに対して、モンゴリナラはかなりの割合で生き残った。

モンゴリナラと呼ばれていたものは、大陸のそれと同じかどうか疑問視されていたが、近年ようやく新しい学名がつけられた。和名もそれに応じて変わったが、ここではまだモンゴリナラと呼んでおこう。

ところで、もう一ヶ所ではどうなったかというところ、モンゴリナラが多く生存している点では先ほどの場所のものと同様であるが、何とアベマキも二十五個体のうち二個体が生存しているのである。その二個体のアベマキは、背丈が十センチメートル以下で、どちらも小さな葉を二枚ずつ付けている。どんぐりを播いた翌年は、みなどんぐりに蓄えられた養分を使って六枚ほどの葉を付ける。年々小さくなり葉の数も減っていき、枯死するものも現れたが、何と二十八

年経っても、二個体だけまだしぶとく生き延びている。こちらの場所は、風あたりが弱いのと、花崗岩の風化がやや進んでいるので、アベマキの消滅が遅れたものと推測しうる。

どんぐりを野外に播く実験を始めてから十年以上経過した時点で中間報告というかたちで学会発表を行ったが、定年まで掛かってしまうとは誰が予想しただろうか。こんな予想をするのは実験を行う私だけかもしれないが。

私が名古屋大学の助手に応募したときに、面接で将来の研究構想を尋ねられた。私はそのときに野外実験をやってみたいと答えた記憶がある。先輩の岩井川さんが、四年ほど前の定年一年前に名古屋大学を去ったが、彼が名古屋大学を去る直前に、野外実験はどうしたと詰問されてしまった。助手として赴任して間もなく、同僚の松原さんなどどんぐりの発芽実験に手を染めて、野外実験はしばしお留守になった。その後、妻が心臓の手術をして重度の身体障害者になった

こともあって、気長に結果の出る研究という軽い気持ちで始めたのが、小原村でのどんぐりの播種による生き残りの野外実験であった。まさか三十年近く掛かるとは思いもしなかった。これでは業績が少ないのも無理はない、と我ながら思う。

おとし来たとき、ちびたアベマキが二個体生き残っていた。二年後には絶滅しているだろうと予測していたが甘かった。アベマキも相当しぶといのである。

本当はあと二個体が枯死してアベマキが絶滅するまでの結果を出したかったのだが、やはり今年で終了することにした。イノシシが周辺を掻き荒らしている。これまでイノシシの影響がなかっただけでも大きな幸運と言わねばならない。

これが最後という思いで、時間ぎりぎりまであちこち見て回った。

帰り道、ヒガンバナにまた出会う。ヒガンバナに先ほどの華やかさが感じられない。バスの時間が迫っているせいかもしれない。

ニュースに「喝」!

刀折れ矢尽きて

唐突に安部首相が辞任した。前々日に所信表明演説をして、それに対する代表質問が午後1時から始まる直前の辞意表明、9月12日はそのことでてんやわんや。与党を含めて、誰一人として適切な処置だったという者はいない。潔いという評も聞かれなかった。僅かに可哀想だという心情を示す人はいたが、総じて、辛口。参議院選挙直後に辞任すべきだったというところが、まともな意見だったように思うが、何にしても後の祭り。

健康問題もあったという。政治家に健康不安は致命的だ。健康不安を抱え、気力の萎えていたルーズベルトがスターリンに一杯食わされたということも聞く。日本にも関わることで、今に尾を引き、日本にとつては痛恨の極みだった。これも後の祭り。

首相辞任のニュースに対して、伊吹文部科学大臣、「刀折れ、矢尽きて……」といったかつたらしいが、最後まで、きちんと言え

ずもごも言っていたのは、笑止千万。最近、慣用句の誤用が目立つという調査結果が発表された後だけ、何も若い人々だけの問題でなく、れっきとした人でも同じ事だと分かった。

内閣改造後、一週間経たぬ内に、曰く付きの農林水産大臣が、金銭の不正問題を暴かれて、またまた辞任していた。その他にも、金に関わる問題が相次いで噴出、もはや、政治家が金銭面では誰も彼もそうだとさえ思われかねない状況になってしまっていた。勿論、潔癖な方々が大多数だと思うのだが、中国製品の一部に（ほんの一部ではないかも知れないが）毒物が混入していたり、残留農薬が多かったりということがあると、何もかも、

中国製品をボイコットしようとするような風潮がある。それと同じだ。マスメディアの発展の負の部分である。一般庶民に判断する材料のないことは、マスコミに頼らざるを得ないから、致し方ないが、その分、マスコミの報道は正確を期して欲しいと思う。朝青龍の問題にしても、モンゴルでは、「何でお相撲さんがサッカルしていけないの」などという反応がある。やはり、事実を正確に知らせる必要が報道機関にはある。

話が逸れたが、一つ、不思議に思うこと。大臣が、金銭の不正を暴かれてそれで大臣を辞任することは当然として、第一、刑事的な責任さえ発生するような不正、庶民の年収にも匹敵するような金額を忘れていたとか、処理を誤ったとか、それが大臣を辞めるだけでいいのか。そういう人に政治家として、国会にいて欲しくないものだ。

そんな人たちに囲まれていた安部首相、気の毒だが、人を見る目がなかったということか。

(田 2007・9・12記)

赤福事件

この頃、食品関係の偽装、製造年月日の改ざん、産地の偽り、等々、種々様々な事件が起こり、

或いは刑事事件になったり、会社がつぶれてしまったりすると、会社の偉い様方が勢揃いし

て、「誠に申し訳御座いませんでした」と深々と頭を下げ、それをカメラマンがフラッシュをたいて撮影する場面がよく見られ、又かといった感じを受ける。

今回の、農林水産省の赤福に対するJAS法違反の疑いでの調査は、「赤福、お前もか」という受け止め方が多かった。売れ残りや、後の需要を見越しての冷凍保存、そして、解凍日を製造年月日にしていたのが偽装だということである。それは、三重県の認可を受けて、もう三十何年間も続いているという。新聞記事にも、「赤福は一度包装した商品を冷凍し、出荷時点で製造年月日を付け直していたため、偽装表示とされた。一方、食品衛生法には製造年月日の表示義務はなく、三重県は同法上の問題は無いとしている。」(中日新聞10月13日朝刊一面)。

会社は、最初から謝り通してある。恐らく、何年間も続けてきたことでもあり、特に問題も起こっていない、色々言い分はあるだろうが、じつと我慢で通している様子がうかがえる。マスコミは、テレビもラジオも新聞もこぞって毎日のように、この数日間、赤福のホームページでの「できたて」ということに對しても容赦なく批判している。新聞で、三重県の許可について載せているのは読者の判断材料として親切であった。

牛肉の中に別の肉を入れながら、純粋の牛肉と偽った事件や、床に落ちた洋菓子を平気で出荷した事件があった。もっと前には、腐った牛乳で実際に被害の出た事件もあった。その他、国産でない物を国産と偽ったり、補助金を詐取したり、こういう事件は後を絶たない。

そういう事件で馴らされたせいか、今回の事件、さほど驚きもしなかったし、赤福に味方するわけではないが、気の毒なような気がした。今朝、冷蔵庫の納豆を出して食べた後で、包装紙を見たら、賞味期限は一月前だった。ひよつとすると、書き間違いではないかと思っただが、そんなことはしまい。しかし、味に何の問題もなかった。水羊羹など、ひよつとすると一年前の物もある。「冷蔵庫で物を腐らす日本人」という本が出たそう。確かに、定期的に整理をしないといけないだろうが、我が領分ではないので放置してある。目に付いた物を言うのである。この賞味期限、消費期限は食品業者にとつては大変だろう。守って欲しいし、嘘はいけないと思うが、消費者も利口にならなければと思う。

赤福に関しては、新聞記事で、こういう冷凍保存は業界の常識とまで言っていた。そうでなければ、あんなに大量に、品切れせずに出せる筈は無かるう。以

前（と言っても随分前だが）の赤福は、明るる日になると餅がカチカチになった。最近のは何日経っても柔らかい。美味しいことは美味しいけれども不思議に思っている。赤福と言えば、死んだヒデ君の好物だった。

（田 2007・10・17記）
今日の新聞でまた赤福が売れ残り分を回収冷凍し製造年月日を改ざんして販売していたということが報じられ、食品衛生法違反でもあるとし、無期限の営業停止処分になり、経営陣の責任問題に発展する可能性が指摘されていた。これからも赤福騒動は当分続きそう。

（田 2007・10・19記）

暴力団

二ニュースを聞いてみると、暴力団組員が……とか、暴力団を辞めた人が……とか、暴力団関係者が……とか、よく耳にする。まさか、漫画じゃないから、そういう人たちが、自ら名乗っているのではなからう。しかし、世の中にはれっきとした暴力団が名前にもあれ、現に合法的に存在する。彼らは一体何をしているのだろう。夏にはわらび

餅を売り、冬は焼き芋屋に成っている聞いたことがあり、以後、わらび餅を売っているのや「石やき芋」などとやっているのをそんな目で見ることもあるが、本当のところはどうなのだろう。

そういう職業があるというとは何かやつて成り立っているのだろう。焼き芋屋やわらび餅屋などは小物の小遣い稼ぎくらいだろう。恐らく、表に出ない巨悪があるのだろう。しかし、そもそも、暴力団なるものが合法的に存在していること自体おかしいことではないか。非合法化して組員を更生させ、こんなのが大手を振ってのさばれないように出来ないものか。アングラ化すると却って良くないのだろうか。根こそぎ社会から根絶できないというのも悲しいことだ。

そう言えば、タバコなど最近では同じような境遇にある。なかなか手放せない人が多いようだ。中にはタバコ批判に確信的に反論する人もいた。大体、タバコがいかに、健康に悪いと言っているから、みんな歳を取って年寄りばかりになってしまった、たばこを吸って早く死ねばいいと思っっているなどと真顔で反撃されたことがある。

よく考えてみればそんなことは言えないのだが、そう言う人

も現にいる。受動喫煙の問題は厄介だ。被害は自分だけでなく、寧ろ周囲に余計被害があるというのだから。

大体、国がタバコに税金を掛けて、これを許可していること自体、変ではないのか。国は収入を当て込んでいのである。もっとも、下手な思案休むにしかずで、その税金に何倍する損失を蒙っているという。フランスなど日本の数倍近い値段だという。近隣の国で安いところがあるとそこまで行つて買つてくると言うからこれも厄介な話。タバコが有害だというなら、もう少し知恵を集めて国境を越えて協力し合えないものなのだろうか。せめて、そうなるまでは日本だけでも、10倍くらいの値段にして、それでも吸いたい人だけが吸うなら、大分世の中綺麗になると思うのだが。尤も、そうすると又闇の世界が活躍するだろうし、暴力団の資金源になるかも知れない。名案は浮かばない。まともな人たちはばかりなら、これは駄目なのだと心得て、駄目なことはしないというような風になると思うが、世の中そうばかりでないのが現実、ああ……。

日本人学生が、イランで、麻薬密貿易グループに拉致されている。こういうグループが存在していることが土台変だと思っけれど、それがげんじつ。ああ……。（田 2007・10・19記）

9・10月号
の感想

平和について考えるいい機会

★名古屋大学平和憲章エッセイの募集があったのですね。学生たちが平和について考えるとてもいい機会だと思います。応募が少ないのが残念ですが、是非来年からも続けてほしいです。

【tima】

エッセイ募集には講評も

★平和憲章エッセイに対する、審査員の言葉を興味深く拝見しました。思ったことではなく考えたことを書く、という記述を目にして、両者の違いをはじめで強く意識しました。平和憲章エッセイの募集の際に、前年の入選作品と審査員の言葉を載せると、より応募者も増えるのではと思いました。私は今年卒業なので、応募できず残念です。

【きよろちゃん】

うたごえ喫茶って何？

★夏の組合員交流企画報告、楽しみにしています。「うたごえ喫茶」とはどんなものなのでしょう？

【はらはら】

オキタビ羨ましい

★2007年沖繩の旅の記事を読んで、本当にうらやましいと思いました。

【JJJ】

皆既月食に流れ星…

★「オキタビ」の記事が良かったです。今回の皆既月食も見られなかったし、はつきりした星座を確認できたこともないし流れ星も見えたことない、夜光虫も見えたことがないので、羨ましく思いました。

【Y】

シギゾウムシ科面白かった

★研究室のみんなで読みました。シギゾウムシ科の特集がおもしろかったです。

【岡田雄治】

何気ない言葉にも

★「魔言」の「御馳走さま」の記事が良かったです。毎日何気なく使っている言葉も、深く意味を考えることが大切だと思います。そうすることで、日常生活に何か変化があるかもしれません。

【しあん】

車内でのビールは嫌い

★東北新幹線車中で、おにぎりや缶ビール飲まれたとあったが、新幹線などで、乗り合わせた乗客が、缶ビールなどを横で飲

み始めると女性の私は、とても嫌な気分になる。臭いが嫌だ。横に乗り合わせた男子学生はどう思ったのだろうかと思になった。財布を落として出てきたのは、東北新幹線だったからよかったのだろうか？

【メイダ】

サルスベリの街路種は…

★今月のクイズはとても難しかったです。サルスベリの街路樹についてですが、真夏に花が咲く樹木はあまりないために選ばれているのではないのでしょうか？ 私はなかなかキレイで良いなと思います。

【玉木一郎】

意見と

通信

みちのくフェア良かった

★現在、ダイニングフオレストでみちのくフェアをやっていますが、いつもと違うメニューが食べられるのは良いですね。これからこういう企画を行ってください。

【JJJ】

今年の猛暑関連記事を

★今年の猛暑関連で何か記事があれば読んでみたい気がします。

【玉木一郎】

アイスのバリエーションを増やして

★購買のアイスクリームの、バリエーションを増やすか、新商品を入れてほしいです。

【きよろちゃん】

トウカエデがきれいです

★レストラン花の木の前の歩道に「トウカエデ」だったかの樹があります。そこに街灯がついていて、これから紅葉の時期にライトアップされているかのようになりそうです。気が付いている方もいるかもしれませんが、とてもきれいですよ。紅葉の季節にお知らせしようと思ってクイズに挑戦しました。

【メイダ】

加入の手続きフロンテでは？

★まだ組合員ではあませんが、当選したら加入します（応募要項に「当選後加入可」と書いてあったので）。加入の手続きは、北部厚生会館まで行かないとダメですか？ 北部には行く機会がない（と言うより、出歩かない）ので、フロンテで手続きできると、とても便利なのですが。いつもお財布に、出資金2万円円を入れて持ち歩いているのですが、手続きできないまま半年が過ぎようとしています。

【Y】

名大生協



「かけはし」編集委員会行

山 折 り

○氏 名 _____ 組合員証番号 _____

○所 属 _____ 研究科
学部
センター _____ 専攻・課
学科・掛 (教職員・院生)

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

山 折 り

①りんごの産地見学【11月23日(金・祝)】

②音としゃべりの金曜サロン「ホット・ジャズライブ」【12月7日(金)】

参加申込用紙

番号	氏 名	所 属	年齢	内 線	組合員証番号

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 274 号

クイズのこたえ _____

☆今月号を読ん
での感想

☆記事にしてほしいこと。生協へのご
意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOP クイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail: kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

CO-OP QUIZ

No. 274
2007年11・12月号

縦と横に書かれた数字にしたがってマスをうめていくと絵（または文字）が現れます。それは何でしょう。

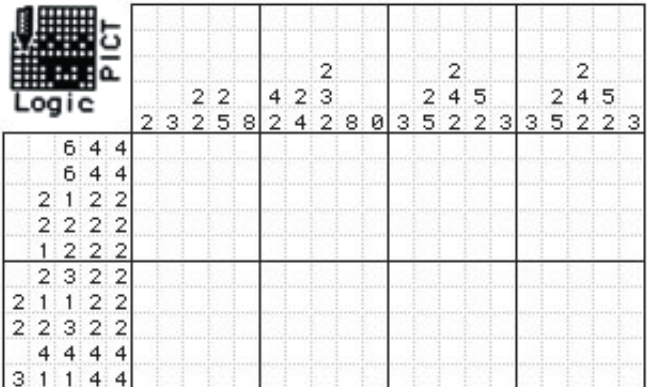
（ヒント＝金曜サロンは？）

クイズが解けたらぜひ応募してください。クイズの嫌いな方は、ご意見だけでも歓迎します。

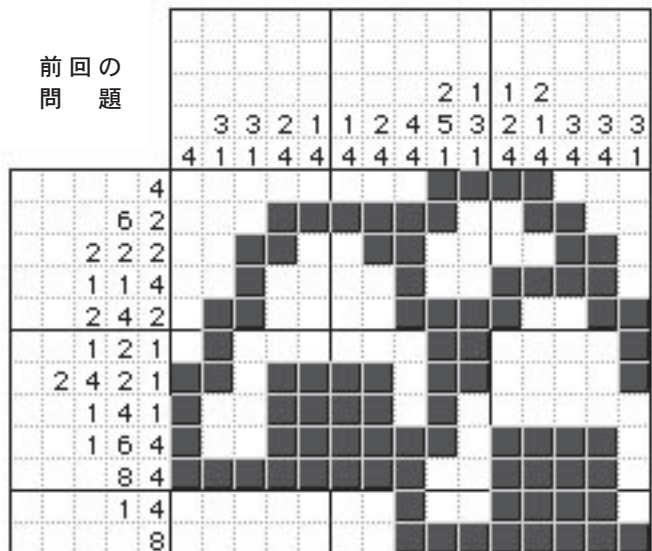
前回の正解は「おにぎり」でした。解き方がまだわからない方は、解答の絵の数字と黒マスの関係をよく見てください。

あなたも Logic の問題を創作（出題）してみませんか。問題の投稿も歓迎します。手描きでもOK。

採用の方には図書カードを進呈。



前回の
問題



第273号の当選者

・応募総数 …… 9人

・正解者数 …… 9人

・当選者（敬称略）

浅井 揚子（財務部情報企画課）

岡田 雄治（理学部）

武藤 梨沙（理学研究科）

玉木 一郎（生命農学研究科）

山本 順子（環境学研究科）

以上の5人の方に図書カードをお送りします。

応募要項

○締め切りは12月17日

○発表は本誌、1・2月号

○正解者（但し、①組合員

②当選後ご加入も可、②

意見・感想記入者）の中

から、抽選で5人の方に

図書カードをさしあげま

す。

○生協への意見・要望をどしどしお寄せ下さい。

冬の組合員交流企画のご案内

DVD 上映会

ゲド戦記 (115 分)

日時: **12 月 11 日** (火) 17:30 ~

場所: 北部 2F ゆ〜どん

日時: **12 月 12 日** (水) 17:30 ~

場所: カフェフロンテ

第 30 回日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞受賞した、スタジオジブリ制作宮崎吾朗初監督作品「ゲド戦記」を上 の 2 会場にて上映いたします。

赤ちょうちん

日時: **12 月 13 日** (木) 17:30 ~

場所 北部 2 F ゆ〜どん

1 人 1 回限り有効の前売り 500 円チケット (約 15% Off) は、お酒または缶ビール 1 本とおでんとおつまみ 1 品付きです。前売りチケット購入希望者は kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp にて受け付けています。

りんごの産直販売

めいきん生協の産消提携・省農薬りんごで有名な F エース「サンふじ」の予約注文受け付けます。ご注文は kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp までお願いします。注文の締切は 12 月 5 日 (水) となります。

助け合い献血活動

日時: **12 月 12 日** (火) 11:00 ~ 13:30
14:30 ~ 16:30

場所: VBL 前駐車場 (北部生協前)

輸血血液が不足する冬の時期に是非、あなたも献血にご協力願います。



冬の組合員交流企画
語らいと交流の夕べ

赤ちょうちん 割引券 (全品 5%Off)

合計金額の 5% を端数 10 円単位で割り引きます。
いつ: 12 月 13 日 (木) 17:30 ~ 20:30 ころ
どこで: 北部厚生会館 2F ゆ〜どん

めにゆー: 缶ビール・お酒 各 200 円

おでん (1 本) 60 円

おつまみ (1 品) 150 円

(焼きそば、串カツ、唐揚げ、肉じゃがなど)

企画は名大生協教職員委員会